

テーマ 『土ってすごいねプロジェクト ～米づくりとひざ椀づくり』

北海道キリスト教学園 湖畔幼稚園

園長 青砥 好夫

担当 安田みゆき

中谷 芽衣

1、活動の趣旨

園の取り組みの一つである「環境教育」において、身近な自然である“土”のすばらしさを知り、その恵みの大きさに気づくことをねらいとして、「暮らす」「食べる」というESDの観点での学びをすすめる。

2、活動計画

- ①北海道教育大学 釧路校の協力のもと、種蒔きから苗植え・脱穀・粃摺り・精米に至る「米づくり」を行う。
- ②釧路保育専門学校の協力のもと、美術講師による陶芸指導を受け、自分のひざに当てて成形した陶芸の「ひざ椀づくり」を体験。
- ③上記のひざ椀を用いて、収穫した米を皆で感謝して食べる。

3、活動事例

①米づくり

普段の園生活において、「土」に十分に触れて遊ぶことや土への関心を絵本などを通して深めた上で活動。年長児は、種蒔きのための土づくりと苗植え用の水田（室内用）準備も行い、種蒔きから苗植え・生育管理、観察を経て、米の収穫作業までの一連の栽培活動を行った。



米の脱穀・粃摺り作業には、年長児が脱穀機や粃摺り機による作業を体験。年中児は手作業でもみ殻とり作業を行い、各作業に年齢に応じて関わって普段食べている米に至る経過を体験することができた。



②ひざ碗づくり

陶芸用の土の感触を楽しみながら、各学年が自分のひざ碗づくりを行った。自分のひざに粘土を当てて茶碗の形が出来上がり、底に台をつけて乾燥。



年長児は焼き上がった素焼き状態の茶碗への釉薬づけを行った。



③おにぎりパーティー

①で収穫した米をおにぎりにして、②のひざ碗の上でいただく「おにぎりパーティー」を、協力をいただいた方々を招いて全園児で頂いた。



4、成果と課題

・子どもたちは、日々いただく食べ物が育まれる「土」の力に気づいたり、食べるために使っているお茶碗なども「土」でできていることを本活動を通して体感することができた。暮らしの中にある土の恵みに気づく力も身につけ、自然を大切にしようとする心が育まれた。

・普段なかなか体験できない取り組みを、地域の教育機関の方々の協力のもと、取り入れたことで、地域や教職員の活動への関心も高く、ユネスコスクールとしての園の活動に対する理解が深まった。

・ユネスコスクールとしての教育活動への理解がより深まるように、わかり易い情報公開を保護者等に対して心がける。